

事業実績報告

2022年度



社会福祉法人
希耀會

🌸 目次

法人概要 3



事業実績（特別養護老人ホーム） 4
事業実績（ショートステイ） 5
重点目標の振り返り 5・6・7・8



事業実績（特別養護老人ホーム） 9
重点目標の振り返り 10・11



事業実績（住宅型有料老人ホーム） 12
事業実績（グループホーム） 13
事業実績（小規模多機能ホーム） 14
事業実績（地域密着型デイサービス） 15
重点目標の振り返り 16



事業実績 17・18
重点目標の振り返り 19
事業活動報告 20・21・22

🌸 法人概要

1. 沿革

- 平成 18 年 10 月 社会福祉法人 希燿會 設立認可
- 平成 21 年 3 月 特別養護老人ホーム 花乃路 開設
- 平成 21 年 6 月 ショートステイ花乃路(特別養護老人ホーム花乃路併設) 開設
- 平成 23 年 4 月 花乃路保育園 開設
- 平成 24 年 2 月 特別養護老人ホーム花乃路 「はなれ」開設 20名増床
- 平成 24 年 7 月 特別養護老人ホーム あやめ苑 開設
- 平成 25 年 2 月 デイサービスセンター花乃路(特別養護老人ホーム花乃路併設) 開設
- 平成 27 年 4 月 複合型高齢者施設ベイサイドわかまつ 開設
- 令和 2 年 1 月 デイサービスセンター花乃路 廃止

2. 法人の実施事業

事業の種類		施設・事業種別	名称	定員
社会福祉事業	第一種 社会福祉事業	介護老人福祉施設	特別養護老人ホーム花乃路 (管理者：竹井 辰介)	100 名
			特別養護老人ホームあやめ苑 (管理者：山内 勉)	100 名
	第二種 社会福祉事業	短期入所生活介護	ショートステイ花乃路 (管理者：松尾 慎也)	10 名
		保育所	花乃路保育園 (管理者：永松 貴美恵)	90 名
		小規模多機能型 居宅介護事業	小規模多機能型施設 ベイサイドわかまつ (管理者：石橋 健司)	登録 29 名 通い 15 名 宿泊 5 名
		認知症対応型老人 共同生活援助事業	グループホーム ベイサイドわかまつ (管理者：小田 晃一郎)	18 名
公益事業	有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム ベイサイドわかまつ (管理者：的場 秀人)	15 名	
	老人デイサービス	デイサービスセンター ベイサイドわかまつ (管理者：上野 晃嗣)	10 名	
収益事業	屋根賃貸 (太陽光発電売電)	特別養護老人ホーム花乃路 (管理者：竹井 辰介)	—	



社会福祉法人 希耀會
特別養護老人ホーム

花乃路

🌸 特別養護老人ホーム事業実績

1. 月別在籍者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
男性	13	13	13	11	13	11	
女性	80	76	78	79	79	84	
合計	93	89	91	90	92	95	
稼働率	84.4%	84.4%	86.0%	87.0%	89.4%	89.7%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	13	15	12	11	13	14	12.7
女性	84	82	80	79	80	84	80.4
合計	97	97	92	90	93	98	93.1
稼働率	92.4%	91.8%	90.7%	88.0%	89.1%	89.6%	88.5%

2. 平均年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
男性	88.1	88.2	89.0	88.7	88.5	88.3	
女性	89.0	89.0	88.5	88.7	88.7	88.9	
平均年齢	88.9	88.9	88.6	88.7	88.7	88.8	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	88.7	88.7	89.2	86.9	85.3	85.0	87.9
女性	89.0	88.7	88.5	88.6	88.5	88.7	88.7
平均年齢	88.9	88.7	88.6	88.3	88.0	88.1	88.6

3. 要介護別入居者推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
要介護1	2	2	2	2	2	3	
要介護2	11	11	11	10	11	11	
要介護3	28	27	26	27	27	28	
要介護4	35	36	38	40	40	42	
要介護5	17	17	17	14	12	12	
平均介護度	3.69	3.67	3.70	3.64	3.62	3.59	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要介護1	4	1	1	1	1	1	1.83
要介護2	11	10	10	8	9	9	10.17
要介護3	29	31	30	30	30	34	28.92
要介護4	40	43	41	38	37	39	39.08
要介護5	15	16	16	17	16	17	15.50
平均介護度	3.65	3.64	3.60	3.56	3.59	3.77	3.64

🌸 ショートステイ事業実績

1. 要介護者別利用者延数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
要介護1	7	6	14	15	34	11	
要介護2	21	18	28	49	37	46	
要介護3	37	56	102	80	52	58	
要介護4	61	40	50	75	57	44	
要介護5	2	4	5	5	14	41	
要支援1	0	0	0	0	0	0	
要支援2	0	6	0	0	3	5	
合計	128	130	199	224	197	205	
稼働率	42.7%	41.9%	66.3%	72.3%	63.5%	68.3%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要介護1	17	9	10	33	39	45	20
要介護2	59	86	68	39	70	75	49.6
要介護3	33	20	45	45	49	42	51.5
要介護4	78	80	73	38	27	25	54
要介護5	40	17	8	16	16	21	15.7
要支援1	3	3	3	3	3	3	1.5
要支援2	8	2	0	0	0	0	2
合計	238	217	207	174	204	211	194.5
稼働率	76.8%	72.3%	66.8%	56.1%	72.9%	68.1%	64%

🌸 重点目標の振り返り

1. ケアの質の向上

新型コロナウイルス感染症による、生活変容が余儀なくされる中、ご利用者に対し何ができるかを考え、安心、安全な生活が守られるよう行動します。

今年度も、感染者数等の社会情勢を見ながら、感染対策の制限と緩和を繰り返す1年となった。感染者数が落ち着いている中では、面会スペースでの対面面会を実施し、限定的ではあるが、感染対策を行いながらご家族との時間を持っていただくことが出来た。日常生活においては、季節や気温を見ながらの花見やドライブレクを実施し、気分転換を図れるような取り組みを行った。施設内においては、数年ぶりに運動会を開催することができ、各種イベント(母の日、ハロウィン、クリスマス、節分等)、外で花を見ながら弁当を食べる等、日常的なレクリエーションも充実させることが出来た。

感染力の高い変異株により、北九州市内での感染者数が増えてくることに伴い、施設内においても職員、入居者の罹患が見られた。非常に強い感染力であったため、複数名の感染者が出てしまったが、看護、介護の対応により重篤な状態になる方や入院者を出すことなく経過したことは幸いであったと考える。また、施設全体に飛び火することなく当該ブロックのみで治まったことは、早期の適切な対応によるものであったと思える。

ICT を活用した介護に対し情報収集を行い、計画を立て、計画的に実行できるよう準備を進めます。

ICT を活用した介護として、検討した見守りカメラ等について複数情報収集し、デモンストレーションも行った。それぞれプライバシーに配慮した仕組みになっており、転倒等の事故を未然に防ぐことが可能で、入眠確認等行えるものであったが、補助金を活用しても施設負担分の費用を賄える状況になかったため、最終的には導入を見送った。今後も、人員不足は続くことが予想され、ICT を活用した介護は必要性が増してくるので、引き続き情報収集を行い、状況に応じて導入を検討したい。

年度目標が形骸化しないように各定例会議(経営会議、運営会議、ユニット会議等)で毎月振り返りを行います。

各ユニット会議で年度目標の振り返りを行い、運営会議においてもリーダーが振り返りを行った。また、経営会議では各専門職が振り返りを行い、その他の各種委員会(リスク、身体拘束虐待、サービス向上等)においても実施したため、年度目標に対する理解と、日常的な業務での目標を意識しながら、入居者への対応ができるような取り組みができた。

サービス向上委員会を主軸とした接遇マナー向上を目指し、新たな取り組みを始めます。

サービス向上委員会にて、北九州市では入所待機者が減少している状況を理解し、選ばれる施設となるために接遇マナー向上を中心とした議論を行い、各委員よりユニット会議にて啓発活動を行っている。また、今年度は全職員参加の職員会議を行い、危機感の共有、サービスレベルを上げていくことが経営状況の改善につながるということを意識して取り組むように啓発した。

2. 職員の資質向上

職種、キャリアに沿った内・外部研修を積極的に行います。

キャリア形成に向けた段階的な研修体制の構築を行います。

コロナ禍ということもあり外部研修はオンラインでの研修となった。入職してからの年数や業務理解度に応じて外部研修を行っており、特に入職して5年未満の職員や、中途採用であるが、介護の経験年数の浅い職員に外部研修を積極的に行った。また、中堅職員への研修と各専門職に対する研修、職員個人の課題に対応した研修も実施することが出来た。

経験年数等に合わせた研修は行えているが、キャリア形成に向けた段階的な研修体系の構築については確立できているとまでは言い難いため、今後の課題としたい。

職員の定着が図れるよう、特に新卒、中途採用者が退職する事がないよう、サポート体制を構築します。

中途採用者に対しては、1ヶ月が過ぎた段階で介護長、介護主任による面談を実施し、不安等の確認、業務において不都合な面がないか等、確認しサポート体制を構築している。

また、人事異動を行った職員も、上長による定期的な面談を実施し、現在、働いている職員の定着が図れるように取り組んでいる。

危機管理を随時見直し、決められたことを確実に履行し、無理、無駄、ムラのない組織づくりを目指します。

コロナ罹患発生時における、無駄、ムラを精査し、社会情勢に応じて危機管理の随時見直しを行ってきた。特に入居者様が罹患した場合の対応が、発生した部署のみに限定されることなく、全部署で迅速かつスムーズに行えるよう周知徹底した。

3. 継続的な健全経営の確立

収支バランスの取れた健全経営を目指します。

稼働率93%以上を維持できるよう入退所調整を行います。

待機者数を増やすため、地域への働きかけや、営業活動を積極的に行います。

今年度の収支としては、上半期と下半期で大きな差となった。上半期は稼働率の低下に伴う、大幅なマイナス収支となり、下半期は稼働率の上昇等に伴うプラス収支。年間を通じでは、上半期の赤字収支を、下半期の黒字収支で相殺した形となった。

過去最大の退所者数35名を出した前年度に続き、今年度は32名の方が退所されることとなった。稼働率の低下を招いた要因としては、退所者の多さに見られる。特に上半期は前年度を引きずる形で、大きなマイナス収支となっていた。また、生活相談員一人体制で、入所調整を行い、待機者数の減少に伴う新規入所案内が可能な方も限定的となっていたため、迅速な入所調整に支障が出ていた。しかしながら、6月に生活相談員が2名体制となったことにより、迅速な入所調整が可能となり、10月に稼働率90%となってからは、下半期においては黒字収支となっている。今後も、今年度下半期のような黒字収支を年間通して計上できるように迅速な入所調整を実施していく。

また、待機者数の減少もマイナス収支に大きく作用しており、入所申し込み月等に関係なく、常時、各種医療機関、老健、有料老人ホーム、居宅等への営業活動を実施し、その結果として迅速な入所案内に繋がったケースも多々見られている。

設備、備品等を大切に扱い、長く利用できるようメンテナンス等定期的に行います。

施設備品、設備の清掃、軽微な修理等は早い段階での修理依頼を出すことにより、定期的の実施できている。しかしながら、経年劣化に伴う故障、修繕は年々増えてきており、修繕費は毎年増加している。今後も、経年劣化による修繕は増加していくため、備品を大切に扱いながら長く使用できるように努めていく。

養成学校、機関が減少傾向にある中、介護の魅力について職業説明会や地域の高校に働きかけ、啓発活動を行い、インターンシップ、実地研修等積極的な受け入れを行います。

地域の学校や養成施設への働きかけを今年度も実施したが、コロナウイルス感染症の影響、また、養成学校や機関における生徒数の減少もあり、実地研修の依頼等は皆無に等しい状況であった。今後は、様々なことが緩和されていくと考えられるため、社会情勢を見ながら実地研修の受け入れを検討していく。また、地域の高校への働き掛けや啓発活動を実施していく。

地域活動について、施設で協力可能なことや、施設から地域に向けた発信ができるような活動等を検討し、コミュニティの活性化を進めます。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、ほとんどの地域行事が中止、もしくは規模を縮小する等、活動性が減少している状態であったため、協力可能なことが非常に少なく、実施できたこととしては低所得者の受け入れ、緊急連絡システム等の実施にとどまった。次年度は、様々な地域行事や自治会活動の再開が予想されるため、協力可能なことは積極的に参加し、地域に貢献できるよう取り組んでいく。



社会福祉法人 希耀會
特別養護老人ホーム

あやめ苑

🌸 特別養護老人ホーム事業実績

1. 月別在籍者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
男性	20	21	20	18	18	18	
女性	70	71	69	72	72	71	
合計	90	91	89	90	90	89	
稼働率	87.0%	83.9%	83.5%	84.6%	85.2%	86.4%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	18	17	18	18	18	17	18.3
女性	72	72	72	73	73	73	71.7
合計	90	89	90	91	91	90	90.0
稼働率	86.3%	85.7%	86.7%	85.5%	83.8%	85.2%	85.3%

2. 平均年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
男性	85.1	85.3	85.8	86.0	86.1	86.1	
女性	88.8	88.8	88.9	89.0	89.0	89.2	
平均年齢	87.0	87.1	87.4	87.5	87.6	87.7	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	86.1	85.9	86.5	86.6	85.9	85.8	85.9
女性	89.3	89.2	89.3	89.4	89.5	89.5	89.2
平均年齢	87.7	87.6	87.9	88.0	87.7	87.7	87.5

3. 要介護別入居者推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
要介護1	2	2	2	2	2	2	
要介護2	6	6	6	6	6	5	
要介護3	21	22	22	23	23	23	
要介護4	27	27	25	26	26	25	
要介護5	34	34	34	33	33	34	
平均介護度	3.94	3.93	3.93	3.91	3.91	3.94	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要介護1	2	2	2	2	2	2	2.0
要介護2	5	5	4	5	5	4	5.3
要介護3	22	22	25	24	24	24	22.9
要介護4	26	25	26	27	28	29	26.4
要介護5	35	35	33	33	32	31	33.4
平均介護度	3.97	3.97	3.93	3.91	3.91	3.92	3.93

重点目標の振り返り

1. 安全・安心な生活環境の確保

新型コロナウイルス感染症の変異特性を理解し、予防対策をはじめ有事発生時の業務継続計画の随時見直しを図るなど、柔軟かつ適切な対応に努めます

新型コロナウイルス感染症の流行開始から2年以上が経過する中、何とか館内での発生を水際で食い止めてきたが、オミクロン株の猛威によって残念ながら年度内に2度、館内で発生した。うち9月に起こったケースはクラスターとなり、入居者5名、職員7名が罹患した。しかし、その実体験を業務継続計画の見直しにつなげ、翌10月に再度発生した際には、感染者は入居者1名・職員1名と最少人数および最短期間で収束する事ができた。また、その対応期間中には、所轄の保健所が視察に来られ、前回のクラスター発生時の対応も含め、ウイルスの封じ込めに成果を出している実際の対応内容について、他施設の教訓にさせてもらいたいとの言葉を掛けていただいたことから、柔軟かつ適切な対応に努めることが出来たと考えている。(年度内感染者数:入居者 6名 職員 23名 合計 29名)

コロナ禍における日常生活上の制限・制約は必要最低限のものとし、行事やレクリエーションなど楽しむ機会の創出に対して積極的に取り組みます

コロナ禍の中でも感染力の強いオミクロン株の流行に伴い、年度途中までは行事やレクリエーションの開催を自重する事を余儀なくされた。しかし、年度後半からは外出機会を増やしたり、食事に関する多彩なレクリエーションを開催したりするなど、入居者の気分転換や楽しみの確保に繋がられたのではないかと考える。

接遇マナー評価制度の実施継続と基本的な生活支援サービスの在り方を見直し、ご入居者の方々が快適で心から安心していただけるサービスの提供に努めます

従来の職員同士による接遇マナー評価制度に加えて、12月よりユニット毎に「入居者の身嗜み」「接遇マナー」「環境整備」の3項目について、各部署長を中心とした調査員チームによる「基本的ケアサービス定期調査」を開始。ご家族との面会制限により第三者の視点が入りにくくなっている入居者の生活環境について、施設全体で律する機会を設けることにより、サービスの質の改善に努めた。

2. 人材育成への取り組み

内外部研修について、集合研修や WEB 研修(リモート、ストリーミング)など、コロナ禍においても多様な方法を活用しながら積極的に実施し、職員全体の資質向上に努めます

年度途中より、次第に現地での集合研修スタイルでも開催されるようになり、リモートでの参加と選択できるなど、その他のWEB研修も合わせて多様な形態で受講できるようになった。しかし、コロナ禍が続く中、施設内クラスターをはじめ、職員の感染も頻発し、人員の確保が困難となつての外部研修の参加取り止めや、その後も蔓延防止の観点から内部研修の開催を中止せざるを得ない状況もあつて、年間を通じて安定的に取り組む事ができなかった。

3. 高品質サービスの提供に向けて

部署内、部署間における情報の共有と連携機会の充実を図ると共に、職員の「考動力」を高め、ご入居者個々人に求められる支援を的確に行えるように努めます

今年度も各部署長を中心に構成している多職種連携会議を通じて、情報の共有と部署間および職員間の連携強化に努め、入居者個々人に対する支援内容の充実に向けた取り組みを進めた。職員個人の気づきや能力には差が存在するが、それらの課題に対してもICT機器であるインカムの活用によって、職員同士のチームコミュニケーションも必要時に迅速に行えることから、支援内容の充実と「考動力」の向上につながったと評価している。

4. 健全経営の確立に向けて

入所総数 90 名、月平均入所者数 85 名の実績が年間を通じて安定的に維持できるように取り組みます

前年度よりサービス基盤の安定化が図られたことに連動して、今年度も年間を通じて堅調な収支実績を残すことができた。コロナ禍にあっても落ち着いた業務環境の中で事業に取り組めたことが大きく、年間平均稼働率も 85.3%と年度目標を達成することができた。

また、サービスの質的向上に取り組んできたことで、多少なりとも入退所の波も穏やかになり、退所者不在の月が年間で4ヶ月ほどとなった。入居総数 90 名の維持期間も事前に想定したよりも長期間となり、この点についても十分な成果が得られたと考えている。

令和5年度の休床ユニットの再開を目標に、待機者および職員の確保など具体的な計画に着手します

コロナ禍が継続する中、待機者および職員共に現状での人員確保に取り組む事しかできず、休床ユニット再開に向けた計画の着手までには至らなかった。一方では、各居室の設備や備品の状況などハード面に対する調査を行い、大まかではあるが補修等の計画を立案している。次年度については、主に人的確保の面について具体的な計画を早期に策定し、年度途中からの事業再開に向けて取り組んでいきたい。

5. 地域福祉の拠点となるために

コロナ禍によって地域との交流機会が保てない状況が続いているため、地域貢献活動の一環として西十四区住民の方を対象とした緊急時生活支援事業の創設を目指します

今年度7月に西十四区自治会役員の方々と協議し、地域貢献活動の一環として「緊急生活補助・環境整備等支援金」を創設。コロナ禍にあって生活困窮世帯への一時的な補助や自治会内の環境整備あるいは行事費用の一部として活用いただく事を目的に資金の提供を開始した。コロナ禍のため自治会内の戸別訪問活動が行われておらず、残念ながら生活困窮ケースに対する支援につながる事はなかったが、防犯街灯のLED取替や敬老会あるいは子供会の行事費用として活用いただく事ができた。自治会員の減少により組費の確保も厳しくなっているとの声もあり、次年度も続けて支援活動を行っていくこととしている。



社会福祉法人 希耀會
複合型高齢者施設

バイサイドわかまつ

🌸 住宅型有料老人ホーム事業実績

1. 月別在籍者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
男性	6	6	6	5	6	6	
女性	9	9	9	9	9	9	
合計	15	15	15	14	15	15	
稼働率	100%	100%	100%	93%	100%	100%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	6	6	4	4	4	4	5.3
女性	9	9	10	11	11	11	9.6
合計	15	15	14	15	15	15	14.8
稼働率	100%	100%	93%	100%	100%	100%	98.8%

2. 平均年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
男性	85	85	85	85	86	86	
女性	85.2	83.2	83.2	86.2	86.8	86.8	
平均年齢	85.1	84.1	84.1	84.1	84.6	86.4	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	86	82.5	82.5	82.5	82.5	82.5	84.5
女性	86.8	88.3	88.3	88.6	88.6	88.6	86.7
平均年齢	86.4	85.4	85.4	85.5	85.5	85.5	85.2

3. 要介護別入居者推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
自立	1	1	1	1	1	1	
要支援1	0	0	0	0	0	0	
要支援2	0	0	0	0	0	0	
要介護1	8	8	8	8	8	8	
要介護2	3	3	3	2	4	4	
要介護3	3	3	3	3	2	2	
要介護4	0	0	0	0	0	0	
要介護5	0	0	0	0	0	0	
平均介護度	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
自立	1	1	1	1	1	1	1.0
要支援1	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	8	7	7	7	7	7	7.6
要介護2	4	5	5	6	6	6	4.5
要介護3	2	2	2	1	1	1	2.1
要介護4	0	0	0	0	0	0	0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0
平均介護度	1.5	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.54

🌸 グループホーム事業実績

1. 月別在籍者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
男性	1	1	0	0	0	1	
女性	13	15	15	17	17	17	
合計	14	16	15	17	17	18	
稼働率	77.8%	88.8%	83.3%	94.4%	94.4%	100%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	1	1	2	2	2	2	1.1
女性	17	16	16	15	16	16	15.9
合計	18	17	18	17	18	18	16.9
稼働率	100%	94.1%	100%	94.1%	100%	100%	93.8%

2. 平均年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
男性	91	91	0	0	0	89	
女性	90.3	90.4	90.5	89.9	90	90.1	
平均年齢	90.6	90.7	90.5	89.9	90	89.5	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	89	89	90	90	90	90	90.0
女性	90.2	89.8	89.8	89.9	89.6	89.2	89.9
平均年齢	89.6	89.4	89.9	89.9	89.9	89.6	89.9

3. 要介護別入居者推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
要介護1	2	2	2	1	1	1	
要介護2	5	5.4	6	6.4	7	7	
要介護3	6.9	6.3	6.7	8	8	9	
要介護4	1	1	1	1	1	1	
要介護5	0.9	0	0	0	0	0	
合計(延数)	474	456	471	509	527	540	
平均介護度	2.61	2.43	2.43	2.55	2.53	2.56	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要介護1	1	0	0	0	0	0.4	0.83
要介護2	7	8	8	8	8	8	6.98
要介護3	9	8.6	8	7.6	6.3	6	7.54
要介護4	1	1	2	2	2	2	1.34
要介護5	0	0	0	1	1	1	0.25
合計(延数)	558	528	558	484	484	541	6192
平均介護度	2.56	2.60	2.67	2.77	2.72	2.72	2.59



🌸 小規模多機能型ホーム事業実績

1. 月別在籍者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
男性	13	12	14	14	13	14	
女性	16	14	13	12	13	12	
合計	29	26	27	26	26	26	
稼働率	100%	89%	93%	89%	89%	89%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	12	10	9	7	6	8	11
女性	14	16	16	13	14	15	14
合計	26	26	25	20	20	23	25
稼働率	89%	89%	96%	69%	69%	79%	86%

2. 平均年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
男性	83.1	82.7	82.2	83.5	83.1	81.7	
女性	84.8	84	83.8	84	84	84.2	
平均年齢	84.0	83.4	83.0	83.7	83.5	82.8	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	80.9	82.7	82	82.3	84.5	84.5	82.8
女性	84.5	83.9	83.5	86.4	86	85.4	84.5
平均年齢	82.8	83.5	82.9	85.0	85.6	85.1	83.8

3. 要介護別入居者推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
要介護1	4	4	5	6	6	7	
要介護2	13	11	10	10	9	9	
要介護3	9	8	8	6	6	6	
要介護4	1	1	2	2	3	2	
要介護5	2	2	2	2	2	2	
合計	29	26	27	26	26	26	
平均介護度	2.45	2.46	2.48	2.38	2.46	2.35	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要介護1	7	6	6	6	6	9	6
要介護2	10	10	9	7	7	6	9.3
要介護3	4	4	3	3	2	4	5.3
要介護4	3	3	4	2	3	3	2.4
要介護5	2	3	3	2	2	1	2.1
合計	26	26	25	20	20	23	25
平均介護度	2.35	2.5	2.56	2.35	2.4	2.17	2.41



🌸 地域密着型デイサービス事業実績

1. 月別在籍者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
男性	76	91	81	77	84	68	
女性	133	126	122	124	140	133	
合計	209	217	203	201	224	201	
稼働率	80.4%	83.5%	81.0%	80.4%	83.0%	77.3%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	70	72	14	64	64	74	69.5
女性	135	136	27	117	128	145	122.2
合計	196	208	41	181	192	210	190.3
稼働率	78.4%	80.0%	58.6%	72.1%	80.0%	70.8%	77.2%

2. 要介護別入居者推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
要支援1	0	0	0	0	0	0	
要支援2	0	0	0	0	0	0	
要介護1	63	64	62	44	49	50	
要介護2	118	118	116	111	126	113	
要介護3	8	9	0	17	38	30	
要介護4	10	13	12	16	0	0	
要介護5	10	13	13	13	11	8	
利用者延数	209	217	203	201	224	201	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	50	53	7	60	66	69	637
要介護2	112	108	22	84	89	88	1,205
要介護3	36	47	12	37	37	53	324
要介護4	0	0	0	0	0	0	51
要介護5	7	0	0	0	0	0	75
利用者延数	205	208	41	181	192	210	2,292

🌸 令和4年度重点目標

1. 地域に根差した包括的支援を目指します

- ・利用者様お一人おひとりのこれまでの生活・歴史を大切に、住み慣れた土地で安心して穏やかな生活が送れるようサポートします。
- ・地域密着型の施設として、地域との関係性を重視し、利用者様が地域社会の一員として参加できる機会を多く持つようにします。(地域の行事等へ積極的に参加します。)
- ・利用者様との関係を大切に「気づき」「心配り」「寄り添う気持ち」を常に持ち、個別ケアの実践を目指します。

2. 職員の教育及びサービスの質の向上を目指します

- ・「福祉」の仕事に、やりがいと誇りを持てるよう、職場環境を整備し、人材育成に取り組み離職率低下に努めます。
- ・良質で安心できるサービスを提供するために、各職員が意識を高く持ち、常に自己啓発に励めるようサポートします。
- ・職員のキャリアアップのため、各種研修に積極的に参加してもらうとともに、資格取得時には助成制度等も含め、組織全体でバックアップします。
- ・決して職員都合の業務は行いません。ご利用者様主体、時代にマッチしたケアを行います。

3. 安定した経営環境を構築し、地域福祉の向上に努めます。

- ・より安定した財務基盤、正確な財務管理、会計処理を行います。
- ・運営については、組織内の責任と裁量権の範疇を明確にし、コンプライアンスを順守します。
- ・地域福祉の拠点として、地域との関わりを密にするとともに、地域高齢者の困りごとを気軽に相談できるような社会資源としての役割を果たします。

重点目標の振り返り

今年度も前年度同様に一年間ほぼコロナ禍の中、なかなか思うような活動（外部ボランティアの受入れ）が出来なかった。特に地域との関わりが強いこの地区で、ご利用者様が毎年楽しみにされていた恒例のソーメン流し、夏祭り、餅つき大会なども一昨年、昨年に続き中止となった。そんな中、「新しい生活様式」「with コロナ」という考えのもと、細心の感染予防対策を講じながらスタッフが知恵を搾り出し、いろいろなレクリエーション、アクティビティを考え少しでもご利用者の満足度を上げられるよう努力してきた。

また、人材の育成については専門的な研修等に積極的に受講できるよう、施設として協力体制を整え専門的知識の習得を図った。個々の知識・スキルが向上することがベイスайдわかまつ全体の「ケアの質の向上」に繋がると考えるので今後も継続していきたい。

人材の確保についても、年に3回ほど個人面談を行い、職員の現状や悩みを聞き、改善点があればスピード感を持って改善するなど職員一人ひとりのストレス軽減、ストレスマネジメントに努めた。

運営面では、昨年12月に新型コロナウイルス感染症の施設内感染により、通所事業所（小規模多機能ホーム、デイサービス）のご利用者様が大幅に減少し大きなダメージを受けた。結局、このダメージを吸収できず厳しい結果となった。今後も新型コロナウイルス感染症をはじめ、あらゆる感染症対策を講じなければならないが、このことを教訓とし、最小限のダメージに抑える方策を確立し対応していきたいと考える。

引き続き、「地域密着型施設」として、地域のお困りごとや高齢者問題の受け皿として、ご近所の方々が気軽に立ち寄れる開かれた施設となるよう職員一丸となり努力したい。



社会福祉法人 希耀會

花乃路保育園

🌸 保育園事業実績

1. 入園児人数表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0歳児	6	7	9	11	14	14	
1歳児	19	19	18	19	19	19	
2歳児	17	16	15	16	17	16	
3歳児	19	19	18	18	18(1)	16	
4歳児	20	20	20	20	20	18	
5歳児	16	16	16	16	16	16	
合計	97	97	96	100	104	99	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児	15	16	16	18	19	19	164
1歳児	19	19	19	19	19	18	226
2歳児	16	16	16	17	18	18	198
3歳児	16	16	16	16	16	15	203
4歳児	18	18	18	17	17	17	223
5歳児	16	16	16	16	16	16	192
合計	100	101	101	103	105	103	1,206

2. 延長保育人数表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0歳児	0	0	0	0	0	0	
1歳児	0	0	0	0	0	1	
2歳児	3	3	3	4	4	4	
3歳児	3	3	3	3	2	3	
4歳児	7	7	8	9	9	9	
5歳児	2	2	2	2	2	2	
合計	15	15	16	18	17	19	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児	1	1	2	1	2	2	9
1歳児	1	1	1	1	1	1	7
2歳児	4	6	8	6	7	7	59
3歳児	3	2	2	1	1	1	27
4歳児	9	9	9	8	8	8	100
5歳児	2	2	2	2	2	2	24
合計	20	21	24	19	21	21	226



3. 一時保育人数表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0歳児	0	0	0	0	0	0	
1歳児	1	0	0	0	5	8	
2歳児	7	12	29	22	17	18	
3歳児	0	0	0	0	0	0	
4歳児	0	0	0	0	0	0	
5歳児	0	0	0	0	0	0	
合計	8	12	29	22	22	26	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児	0	0	0	0	0	0	0
1歳児	7	6	4	3	7	3	44
2歳児	18	12	12	12	2	1	162
3歳児	0	0	0	0	0	0	0
4歳児	0	0	0	0	0	0	0
5歳児	0	0	0	0	0	0	0
合計	25	18	16	15	9	4	206

令和4年度重点目標

1. 保育の質の向上

- ・発達過程の最も初期に当たる乳児期には、養護の側面が特に重要であり、養護と教育の一体性をより強く意識して保育を行います。
- ・子どもの意欲や主体性に基づく、自発的な活動としての生活と遊びを通して、様々な学びが積み重ねられるよう誘い掛けを行います。
- ・「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の五領域に関わる学びを子どもの実態を踏まえ相互に関連を持ちながら適切に行うため、細やかな配慮に努めます。

2. 職員の資質向上

- ・自己評価に基づく課題等を踏まえ、保育園内外の研修等を通じて、職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得に努めます。
- ・一人一人の職員が日々の保育実践において、子どもの育ちの喜びや保育の手ごたえを、共有し合うことを通して、今求められる知識や技術を習得し更なる向上に努めます。
- ・計画的に研修の機会を確保し、各職員がバランス良く受講できるように努めます。

3. 危機管理・安全対策

- ・感染症の集団発生予防に努め、感染症に対する正しい知識や情報に基づく感染予防の為の適切かつ迅速な対応に努めます。
- ・子どもの身体、情緒面や行動、家庭における養育状況について、きめ細やかに観察するとともに、保護者や家族の日常生活や言動等の状況を見守り、虐待等の早期発見に努めます。
- ・職員間のコミュニケーション、情報共有、事故防止の為の実践的な研修を行い、事故発生防止に努めます。

🌸重点目標の振り返り

新型コロナウイルス感染症は、次々と形を変え令和4年度は、オミクロン株が猛威を振るい、保育現場は、緊張感が続く日々を過ごしてまいりました。そのような中でも本園は、感染拡大することなく、エッセンシャルワーカーを支える専門職として精一杯の努力をしておりました。

子ども達には、安心・安全な環境の下で保育の提供を行いました。

「保育の質の向上」では、子どもの意欲や主体性に基づき、生活と遊びが繰り広げられるよう環境を整えました。子どもの発達の実情を踏まえ、寄り添い・抱きしめ・語りかけることを大切に保育を行いました。

「職員の資質向上」では、自己評価に基づく課題等を踏まえ、保育園内外の研修等を通じて、必要な知識や技術の修得に努めました。計画的に研修の機会を確保し各職員がバランス良く受講できるようにしました。

「危機管理・安全対策」では、地震及び火災による被害を最小限に抑えるため、様々な災害を想定した訓練を行っています。特に今年度本園のマニュアルを項目別に見直し、全職員共通理解に努めました。

今後も安心・安全で質の高い保育を目指して職員一同努力して参ります。



花乃路保育園 事業活動報告（令和4年度）

実施月	外部研修	人数	内部研修	人数
4月			保育目標及び専門職としての目標	18名
			人権研修	18名
5月	●新任保育士研修（第1回）	1名	災害時の対応について（災害備蓄品の確認）	18名
	●第1回献立検討研修会	1名		
	リーダー研修会	1名		
	*乳児保育研修（第1回）	1名	人権研修（園長研修）	18名
	実習指導担当研修会	1名		
	遊びを豊かにする言葉の研修	2名		
6月	新任保育士研修（第2回）	1名	災害時マニュアルについて	18名
	*乳児保育研修（全4回実施）	1名		
	保育所長研修	1名	人権研修	18名
	子育てを考える会	2名		
7月	第1回給食献立伝達研修	1名	保健衛生マニュアルについて	19名
	九州ブロックセミナー	1名		
	●*障害児保育研修（全2回実施）	1名	人権研修	19名
	安全管理研修・水の事故	1名		
8月	●児童虐待対応研修	1名	吃音について（園長研修）	19名
	●給食施設管理者等研修	1名		
	人材育成研修	1名	人権研修	19名
	子育てを考える会	2名		
9月	カウンセリング研修（全3回実施）	1名	安全管理マニュアル（不審者対応）	19名
	地域子育て支援研修	1名	人権研修	19名
	領域（言葉・人間関係・環境）研修	1名		
10月	*マネジメント研修	1名	子どもの病気について（園長研修）	19名
	●全国保育士研修大会（山形）	2名		
	*●保健衛生・安全対策研修（全2回実施）	1名	人権研修	19名
	子育てを考える会	2名		
11月	北九州市保育研修大会（施設長）	1名	食中毒対応・アレルギー対応	19名
	北九州市保育研修大会（保育士）	7名		
	九州青年部研究大会	1名		
	●給食献立伝達研修	1名	人権研修	19名
	子育てを考える会	2名		
	*幼児教育研修（全2回実施）	1名		
	食事に関する研究研修会	1名		
	●職員専門研修会	1名		
ひまわり学園地域職員勉強会	2名			
12月	特別研修会	1名	虐待対応マニュアル	19名
	新任保育士フォローアップ研修	1名	人権研修	19名
1月	中堅保育士研修（全3回実施）	1名	映画「こども会議」について	19名
	*●アレルギー対応研修（全2回実施）	1名		
	遊びを豊かにする言葉の研究研修会	2名	人権研修	19名
	●保育所調理員研修	1名		
2月	北九州市保育士研究研修会	1名	人権擁護のセルフチェックリストを記入して感じたこと	19名
	給食献立伝達研修	1名		
	子育てを考える会	2名		
	広報誌研修	1名	人権研修	19名
	地域子育て支援研修	1名		
	遊びを豊かにする言葉の研修会	2名		

3月	●人権研修	1名	自己評価	19名
	幼児期の肥満とやせに関する研修会	1名	人権研修	19名

*→キャリアアップ研修 ●→オンライン研修

年間行事

実施月	行事名	
4月	第12回入園・進級式・芋の苗植え・園児内科健診	
5月	4・5歳児歯科検診・遠足ごっこ・シルエット劇場(年長児)・ゴミ0の日清掃活動	
6月	夏野菜の苗植え・保育参観週間・プラネタリウム見学(年長児)	
7月	プール開き・七夕まつり・おひさまのいえ日帰り保育(年長児)・五平太みなと祭り(年長児)	
8月	夏野菜の収穫・お祭りごっこ	
9月	敬老の日(花乃路訪問)・冬野菜の種まき	【地域行事】 ・わらべうた ・新春コンサート
10月	運動会・保護者個人懇談会・秋の幼児五平太ばやし発表会(年長児)・ハロウィンパーティー	
11月	総合避難訓練・芋掘り・焼き芋パーティー・わらべうた・園児内科健診	
12月	生活発表会・クリスマス会・冬野菜の収穫	
1月	新春コンサート・おひさまのいえ(あそびにいこうよ・年長児)	
2月	豆まき・保育参観週間・お買い物体験(年長児)	
3月	ひな祭り会・お別れバイキング・第12回卒園式・修了式	

※毎月の活動【誕生会・身体測定・避難訓練・4・5歳児体操教室・食育活動】

- ・地域行事は秋のわらべうた(11/12)冬の新春コンサート(1/20)を行いました。
- ・特別養護老人ホーム「花乃路」との交流はできませんでしたが、窓越しに手を振るなど、運動会の様子や園庭での遊びの様子をご覧いただいています。
- ・行事が感染対策で中止になる中、園内で楽しめることを模索しながら、園児には様々な体験を提供しました。

実習生等受け入れ実績

実習依頼施設	実習期間	参加人数
福岡こども専門学校（保育科1年生）	8/16 ～ 8/18	1名
福岡こども専門学校（保育科1年生）	11/28 ～12/ 2	1名
西南女学院大学短期大学部（保育科1年生）	2/ 6 ～ 2/17	1名
九州女子大学（保育科3年生）	2/14 ～ 2/25	1名
九州女子短期大学（保育科1年生）	3/ 6 ～ 3/17	1名

- ・1年生は新型コロナ感染対策として、園児との非接触、見学実習を行いました。
- ・3年生は実践実習を3回行いました。

